

# 株式会社デリカ

平成25年度

## ■事業計画名

堆肥散布機の特注品を短納期で製品化する  
全体最適化生産管理システムの試作開発

## ■概要

政府の農業政策を受け、農家独自の作業機の要求が増加している。そこで、受注から出荷までのリードタイムを飛躍的に短縮する革新的な生産管理システムで全体最適化を図り、当社主力製品であるマニアスプレッダ（堆肥散布機）の特注品を柔軟に製品化して新規ユーザーを獲得し、事業拡大を目指す。

## ■分類

- ＜対象類型＞ ものづくり技術  
情報処理
- ＜事業類型＞ 一般型  
試作開発＋設備投資

## ■成果

農業者は、農作業効率を高めるために個々のニーズに合った作業機を要求する傾向が強い。そこで、当社の主力製品である堆肥散布機等の特注品を、短納期で迅速に対応するため、全社業務を最適化して生産リードタイムを短縮できる生産管理システムを構築した。

従来は部品等の調達、作業指示、進捗状況把握など、情報が整流化できず調達ミスや仕掛りが相当数発生していたが、本事業により情報の流れが全体最適化でき、仕掛在庫や納期短縮による受注機会ロスが減少するなど成果が期待できる。



# 好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社デリカ（松本市）

農業の合理化を推進する独自製品を開発・販売。  
新たな生産管理システム導入で評価さらに高まる。

## 「デリカ」ブランドで販売

TPPによる農業への影響が議論される中、農業生産の効率化、大規模化は重要なテーマ。デリカは、農業の合理化を推進する独自製品の開発で注目を集める農業機械メーカーです。



堆肥散布機（マニアスプレッダ）

創業間もなく、耕うん機に取り付けるトレーラーを開発。農業の機械化の進展に伴い、現在の事業の柱であるトラクター用作業機、トラクター用3点リンクの製造をスタートさせ、農業機械・産業機械で多彩な製品を開発しています。

トラクター用作業機は、「デリカ」ブランドで販売する「堆肥散布機（マニアスプレッダ）」。ディーゼルエンジンを積んだ自走式の大型機から、ハウス内で使える小型機まで豊富なラインナップを持ち、大型機では国内6割のシェアを誇ります。

トラクター用3点リンクは、トラクターと作業機の連結機構。トラクターメーカー各社の要求に応える製品づくりにより、国内すべてのメーカーに供給。国内シェアは約8割にのぼります。さらに各メーカーの海外展開に合わせ、タイに生産拠点を設けるなど海外市場への供給体制も整えています。

「デリカという社名は創業時、メンテナンスを手がけていたディーゼルエンジンの商品名からつけました」と社名の由来を話す戸田竹廣社長。珍しい名前のため、由来を聞かれることも多いそうです。

## 新たな生産管理システムを構築

同社の柱であるマニアスプレッダでは、農家によって異なる作業の仕方に合わせた特注品を求められるケースが多く、「競合他社ができないことを確実にやり、顧客掘り起こしを図っていこうと取り組んでいます」（戸田社長）。

顧客ニーズにより臨機応変かつスピーディーに応えるためには、さらに効率的な生産体制の構築

が必要。同社ではその観点から、ものづくり補助金を活用し、会計と生産管理を統合した新たな生産管理システムを構築しました。

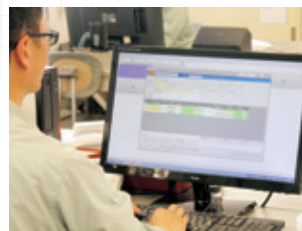
「材料手配から工程ごとの指示、検査、出荷まで一気通貫でコントロールでき、リアルタイムで進捗状況が分かるシステム。全員が使いやすいシステムを目指し、社内各部署から集まるプロジェクトチームで取り組みました」。

システム上で在庫確認ができるため倉庫に確認に行く手間が省け、部品の欠品も減少。納期回答がスピーディーにできるため、顧客からの評価も高まりました。「平成27年は半年で19件の見積もり依頼があり、そのうち13件が受注できました」と戸田社長はシステム導入の成果を喜びます。

同社は平成25年度グッドカンパニー大賞特別賞を受賞。「会社・社員・株主三位一体となった経営に努め、時代のニーズに合った製品開発を行っている。そんな会社の取り組みをトータルに評価いただいたと思っています」。



塗装工程



会計と生産管理を統合した生産管理システム



バーコードで進捗管理



## 株式会社デリカ

代表 代表取締役 戸田竹廣  
創業 1953（昭和28）年  
資本金 9,500万円 従業員数 125名  
本社 松本市大字和田5511-11



TEL.0263-48-1184 FAX.0263-48-1190

事業内容 農業用作業機械（インプル）、トラクター部品、大型フレーム等の設計・製造・販売